

## その1 人生100年時代の終活

最近「終活」という言葉をずいぶんと耳にするようになりました。この飛騨市でも、高齢の方々の間では、終活への意識がかなり浸透してきています。

しかし多くの方々は終活を「自分の死に備えて身の回りを整理しましょう」という考えで捉えてみえるようです。また中には「まだまだ元気だから、そんなことは考えたくない」という方もみえ、むしろそう思われている方が大半のようです。確かに身辺整理ではありますが、それは終活の一部にすぎません。

さて、最近の終活ですが「自分の最期の時に向かって、もっと自分を主張してもいいのではないか」という考え方に変化してきています。

国政でも「人生100年時代」と言われその対策などについて議論されるようになり、ひと昔前の様に老いと死が隣り合わせであった頃に比べ、老いから死への時間はずいぶんと長くなりました。それは同時に、人は自分の亡くなった後のことや、家族への想いを十分に考える時間を持つようになったとも言えます。そしてこの十分な時間の中で、本来の「終活」である「自分らしく生きて輝く」ことを実行し、余生を楽しく充実させていっていただきたいと思います。まずは「自分らしく生きる」ことが終活のスタートです。

さて、次回からは終活でおこなうとされていることについて、いろいろとお伝えしたいと思います。身近なことでありながら自分では気が付いていないことや、今まで知らなかったことなど、ぜひご自身の終活に生かしていただきたいと思います。

## その2 遺産相続は私には関係ない？

多くの人は「私には遺産相続なんて関係ない」と思いがちです。その理由は、「うちは財産が少ないから争いがおこるはずがない」とお考えのようですが、実際、遺産分割の裁判で争われるケースは5,000万円以下が全体の75%です。こういった遺産相続について生前準備をしていないと不必要な争いに発展することも起こりえます。「家督を継いだのは私」「介護をしたのは私」など、法律では割り切れない感情が生まれるものです。昨年度の終活に関する意向調査では、準備しておきたいことのトップが「財産整理」で、6割を占める結果となっています。

さて、相続財産とは預貯金や不動産だけではなく、有価証券、車両、宝石や骨董など様々なものが対象になります。整理して計算すると思った以上に多い場合があるのです。

まずは、相続財産の一覧表を作成しましょう。通常は相続発生後に遺族が遺産分割協議などを行う際に作るものですが、一番よくわかっている本人が作っておけば家族の負担も減らすことができます。その際に、不要な口座やカード類は整理しておくことも大切になってきます。できれば、口座などは2つ程にまとめておいた方が良いでしょう。特に気を付けたいのがローンや借金など、負の財産も明らかにしておくことです。このように全ての財産を洗い出しリストを作成したら、なるべく通帳や登記簿権利証等の重要書類は一カ所にまとめておけば、もしもの時にあちこち探さずすみずみです。その後は、財産リストを定期的に更新し、家族や信頼できる人に知らせておくことも必要です。